2026_1021「湖面に見事に反映したオーロラ」日々の理科 4455 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

スウェーデン北部、ポルユス駅の駅事務室に設置したオーロラ自動撮影カメラが、見事な光景をとらえました。夜空を横切る鮮やかな緑色のオーロラが、眼下の湖面にも映り込んでいます。まるで空と湖が一体になったような幻想的な風景です。しかし、湖面に反映するオーロラを撮影することは、実はそれほど簡単ではありません。

まず、オーロラが出現する季節であることが必要です。北極圏でオーロラを観測できるのは、夜が十分に暗くなる８月下旬から翌年の４月上旬までです。一方、ポルユスの湖は例年１１月上旬には凍結してしまいます。つまり、湖面への反映を撮影できる期間は、秋のわずか２か月余りに限られます。さらに、風がほとんどなく、湖面が鏡のように静まり返っていること、そして、ある程度強く、明瞭な帯状のバンド・オーロラが出現することも欠かせません。これらの条件がすべてそろう夜は、１年間でも１０日とないでしょう。

ところが、この写真には、何とも惜しいところがあります。オーロラそのものは申し分なく、湖面も静かで、まさに絶好の撮影条件です。しかし、カメラの設置場所が湖岸線から遠いため、オーロラの反映が手前の地面に隠れ、全体像をとらえきれていません。もし、もう少し湖に近く高い場所にカメラを設置できれば、天空のオーロラと湖面の反映を一枚の画像に収められるはずです。次回の渡航時には、カメラの設置場所を再検討したいと思います。

（2026 年 10 月中旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅／東京から遠隔観測）

